

長崎高教組 新加入

発行
〒850-0013 長崎市中川2丁目2番5号
長崎高教組会館 長崎県高等学校教職員組合
☎ (095)-827-5882
FAX (095)-826-2976
編集責任者 平井秀治
一部 10円

高教組メールアドレス
naga-kks@fs
inet.or.jp

カギは気楽に声かけること

委員長メッセージなどを使って

27人

新加入・継続

合員継続を明らかにした教職員が24人ですから、現在27人の加入を数えることとなります。しかし、この加入者数は3月末の組織人数を回復するまでには至っていません。85人の加入が

こうした情勢に鑑みて、本部執行委員会は、年間85人の加入を実現し、漸減傾向に終止符を打つことが喫緊の課題として各職場での声かけを気楽に行うよう求めました。声かけの材料として平井委員長の手書きのメッセージ(左の内容)に分会員の声を加えて配布することとしています。

85人の加入実現は喫緊の課題

新年度に入って小浜や長崎商業、教育機関からそれぞれひとり、計3人の組合加入が届けられました(4月23日現在)。また、再任用者などを中心に組

◇長崎高教組への誘い◇—2011要員長メッセージ— 「誇り」の源を育むために

長崎高教組執行委員長 平井秀治

■3月11日、私は遅い昼食をとっていた。高校入試・社会の採点に時間がかかり、同僚とともに職員室に戻ったのは運命の2時46分の少し前だった。誰かが「東北で大きな地震」と言々、「津波も」と驚愕の声を発した。直ちに、職員室の大きなTVをつけた。津波が田畑を、住居を、車を、次々とのみ込み、一つの町が消える…。

■11日の一週間前の4日、6年前の卒業生たちが私の退職慰労を兼ねて、集まった。東京や神奈川からの出席もあって、恐縮と感謝が混在した。しかし、彼らが私にくれた手作りの卒業証書に、ためらうことなく涙した。私の名をもって、できあがった証書。最後2文字からこう書かれていた。「**5**ん命を共にした平井先生は **1**ぶん達3年2組の誇りです」。

■長崎県高等学校教職員組合(長崎高教組)は結成されて63年経つ組合である。先輩諸氏からのパトタッチで脈々とした歴史をもつ。地位や名誉を得るような組合ではない。あるのは仲間を思い、生徒を思うことである。企業の労組と違って私たちは絶えず、教育、生徒のことを正面に据えてとりくむ。

■所属する全日本教職員組合(全教)はいま、いち早く宮城高教組内に現地対策本部を立ち上げ、救援活動にとりくんでいる。

私は、組合でもたくわえた知識や指導方法、経験を惜しみなく生かすだけである。出会った長崎高教組と全国の仲間、そして何よりも生徒たちを、私こそ「誇り」に思う。

■組合に加入することは「誇り」の源を育むことである。是非、多くの人が組合に入ってつながって、ともに力をたくわえて行きたい。

(2011/04/13)

高教組は3月29日、教育センターに対し、研修内容の改善や校長に対する教職員の研修履歴提示の撤回等を内容とする申し入れとともに交渉を行いました。

これはセンターが2月に提示した研修等の変更についてを踏まえたもので、本部役員3人が出席



▲申し入れを渡す高教組(右)

○研修履歴扱いについての注意点
「校長に通知すると約束」
協議を評価「今後も意見をもらいたい」

県教育センター

こちら書記局

◆副知事就任挨拶と県民の声
高教組宛のふたりの副知事就任の文書によると、「各種施策やプロジェクトを着実に推進」とふたりともうたい、「人が輝く 産業が輝く長崎県づくりのため」(藤井副知事)「活力に溢れ 生き甲斐をもって暮らせる長崎県づくりのため」(田中副知事)「全力を尽くす」としている。

長崎県が沈滞し続けている大きな原因は、県民の様々な声を謙虚に聞かないところにあるのではないかと。そういえば、前述の挨拶の文言中には「県民」という文字はひとつもない。

◆教育長就任と政争の具

教育長に新しく就任した渡辺敏則さんは、土木部参事監や農林部長、地域振興部長を歴任した行政マンである(4/9長崎新聞)。30数年ぶりに現場からの登用であった前教育長が教職員の不祥事を理由にその責任を問われた。結局、辞任。「教育長」ポストが政争の具になった観があり、極めて残念である。

渡辺教育長は就任の挨拶に来局して「よろしく申し上げます」(4月8日)。

し、センター側は副所長等3人が対応しました。高教組の①地域行事への参加を社会貢献活動研修として取り扱うこととする要求について、センターは「地域の諸事情も考慮した校長の判断」と回答。

また、②履歴の提示に關わって高教組の指摘した「研修への強制参加」など共通の話題(管理職との面談の時の)になればと面談している。研修でのプラス面を面談で利用できるように。現場で、高教組が指し

○研修履歴の提示について
*高教組の指摘は理解できない。履歴を示すことによりは、教員の長所や専門性の高さを認めていない。
*民間等が実施している研修については、会場を外部に提供することは行っていない。

○その他
*10年研の一部「自己啓発」の主な回答要旨
*10年研の一部「自己啓発」の主な回答要旨
*10年研の一部「自己啓発」の主な回答要旨

職場の問題改善は最優先事項

つながり深まる 会議・交流会で

分会長会(左の写真は全体会を開きました。)

高教組は4月2日、諫早で全県支部代表者・分会長会(左の写真は全体会を開きました。)



被災地の救援のつながりは組合の理念と同じ

会議に先立ち、参加者は東日本大震災による犠牲者に対し黙祷を行いました。

分会の出番がある

私たちは、実習を担当する教員を「実習教員」という呼称を使う。教育公務員だから教員である。県教委は「実習助手」に拘って久しい。



ある校長が今春、壇上に立つ教職員を前にして語ったことばに驚いた。「実習助手の○○さんは」と言い、続けざまに「事務の○○先生は」と紹介、

とに、組合加入者を増やしていくことが求められている」と述べました。

分会が問題改善の先頭に立つことを期待

馬場書記長は「職場生活問題改善の先頭に立つことを期待」

場に問題があれば何よりも優先して、この改善のためにとりくんでほしい」と語り、職場の要求実現に全力を尽くす姿勢を明らかにしました。

ひとくち感想

〔全県会議に参加した方の感想から〕

○「再任用や期限付・時給再確認できた。部活動間講師などの先生方の勤務条件について学習し、その厳しさに驚きました。私たちが手助けできることを頑張らなければと思

あたたかい雰囲気の中で参考になる話を聞くことができた

○「組合の活動は充電だと強く感じました。日頃、仕事に対する疑問をお互いに話し合える場が長崎高教組だと思います。多くの人たちが高教組に入り、いろいろな経験し、学べるようになるとうい

そこまで来たか



土曜や日曜の週休日にたかなくない時、「調子が悪い」と電話して休んでいる。その意志で出て、生徒の教育であるとなると疲れもそう生じない。時間を自分で調整することができ

福島県立高教組から感謝のメール届く

“生徒の学習権、教職員の生活を
守るため
ふんばっています”

福島の県立高等学校教職員組合は私たち長崎高教組と同じく全教・日高教の一員です。その福島からメールで新聞(4月1・15日付)が届きました。



問 高教組本部の執行部の専従役員と非専従役員は違うのですか。

答 本部執行部は書記長だけが専従役員で、あとの6人は非専従役員です。専従役員は、現場を休職して、長崎市の高教組書記局で毎日勤務しています。休職中ですから在籍している学校での勤務はありません。県から給与は支給されませんが、組合の財政から給与を支給しています。